

上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書（特別研究・一般研究）

研究代表者 所属・職名 学校教育研究科・准教授

氏 名 阿部隆幸

研究期間 平成28年度～平成29年度

研究プロジェクトの名称	ICT を活用したアクティブ・ラーニング型講義への移行・適応プログラムの開発
研究プロジェクトの概要	<p>平成29年3月に告示された学習指導要領のキーワードの一つに主体的・対話的で深い学び（いわゆるアクティブ・ラーニング）がある。大学の講義を中心に、従来の教師主導型の一斉授業からの転換、脱却が求められている。</p> <p>本研究代表者は、長らく民間教育団体研修と深い関わりをもってきた。民間教育では、自由に、自主的に研究の方向性を決められる性質から、社会の流れを敏感に察知し、先端の教育技術の考え方や技術を身に付けていこうとする動きが数多く見られる。</p> <p>新しい学習指導要領と民間教育との流れに今後ますます必要とされるであろう ICT 活用とを組み合わせたアクティブ・ラーニング（以下、AL）型の授業デザインを考案し、提案していく。</p>
研究成果の概要	<p>2年間のプロジェクトを1年ずつ以下のように大まかに区切り研究を進めた。</p> <p>1年目は、AL への情報収集とそれに伴った、AL 型講義を取り入れた授業実践の検証である。具体的には、3つの大学外へ研修に出かけて AL 授業の見学、技法の習得、試行を行った。それをもとに、大学学部授業「生徒指導・進路指導と教育相談」を中心に AL 型授業実践を行い、検証した。本実践は教職大学院研究紀要にまとめた。</p> <p>2年目は、1年目の研究に加えて、AL 型講義に ICT を活用する視点を取り入れた実践研究を進めた。具体的には2つある。1つは一方的に教え込みがちな「情報モラル」の授業で「教え・教えられる」関係を逆転する授業を考えた。これは学会発表した。もう一つは ICT 初心者教員に向けて、ICT を AL 的に授業を導入していく技術や考え方を提供する講座を開き、DVD で配布したり、DVD を使って研修をしてもらったりした。その後、この様子はインターネットニュースで紹介してもらった。</p>
研究成果の発表状況	<ul style="list-style-type: none"> ・阿部隆幸：異年齢による価値観の違いに関する事例的研究-モラルジレンマ教材を用いた『学び合い』をもとに-，上越教育大学教職大学院研究紀要，2017, 4 巻, pp37-45 ・阿部隆幸，大笹いづみ，古賀大吉，池本香衣：アバターを用いて教授行為を逆転させることで得られる情報モラル授業の効果，第16回臨床教科教育学セミナー，2018.1.6，東京学芸大学
学校現場や授業への研究成果の還元について	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の様子を DVD の形にして関係学校、関係研究会へ配布。 ・講義 DVD を使った研修会の開催 ・ICT 教育ニュースへの掲載「上越教育大学教職大学院、ICT が苦手な人のための初歩の初歩講座」